

のり又部落内ニ出未夕綱事E部外ニ救  
災スレバヨイトノ考エテアツタ(甲界)  
グノト同シオテ人何ノ靈能ヲ分化セシ  
メタ奇怪アルヲ以テシキ神ヤイノ神石  
ノ神等ト称シテ部落ノ安全ヲ計ツタノテ  
アルノ神ヲシヤクジト云ツタ例ハ後川  
村中村カラ攝津ハ行ク道ヲ拘子峠ト云フ  
ノガアル拘子ハ石神ノコトデアアル又  
東ノ峠ヲ七石峠ト云フガ之モ石ヲモツテ  
境トシテイル船井郡ト多紀郡ノ境ニ磐  
坂山ト云フノガアル定メシ境山ノ意  
ト思ワレル遠才村ノ北天田郡ト多紀郡  
ノ境ニモ立岩ト云フノガアルニ天許リ  
ノ巨岩ガ道ノ西方ニ併立シテイル一フ  
ノ石ハ天田郡ニ一ツノ石ハ多紀郡ニア  
ル

### 第十四章 遠方阿弥陀堂ノ事

阿弥陀堂 (貞亨記)  
里ノ北方ニ在リ本尊阿弥陀仏暨ヒ観音ノ像  
ヲ安ズ共ニ行基ノ刻ナリ  
阿弥陀堂 (對齋志)  
遠方村ニ在リ像ハ行基ノ刻  
秘降寺兼帶阿弥陀堂本尊行基作領主除地  
堂ノ事 (多紀郡郷土史明細録)  
阿弥陀堂行基作遠才村无知軍向社寺調ニ  
ヨリ遠才阿弥陀仏ハ三尊世トアル今ハ  
ニ体ニテ一体ハ失ワレテイル  
阿弥陀堂 (多紀文化顯彰會)  
阿弥陀堂本尊觀音ノニ体ハ木彫デア未  
ハ高サ八尺村ノ觀音ハ九尺新ノ商素ナカ  
法年ヲヨクマツマツテ景晴ニサメレニ  
古色蒼然トシテ午年ノ雨露ニ感エテイル  
ドウヤラミ尊中ノ勢至菩薩ガドコガハサ  
ラツレタラシイノ法手法ヨリニテ大化  
時代ト鑑定シテ主マツ向遠イナカラウ  
從来草山村ノ文化ハ大同軍向ヲモツテ散  
初ト考ヘラレテイタガコノ像ヲ今日尙  
見シク以上草山村ノ廟ニツイテハ商檢討  
ヲ要スルコトトナツタ

法藏寺 (多紀郡明細録)  
草山村遠才五十六番地浄土眞宗 創立天  
保七年二月本仏許下弘化三年二月六日寺  
号公御明治八年七月二十三日  
法藏寺 (明治十二年寺社調)  
丹波口多紀郡遠才村五十一番地寺号ノ坪  
註明治二十七年九月廿六日寺地番改正許  
可草山村ノ内遠方村寺号ノ坪五十一番地  
ト訂正  
一 本尊阿弥陀仏  
一 眞宗本願寺派  
一 由緒天保土丙申年二月本村内長五郎ト  
申者念仏者ニテ数年ノ念願旧藤山藩寺  
社方へ届出テ一宇ノ道場ヲ創建其後弘化  
三年年二月寺号法藏寺ト許可成付本尊  
阿弥陀仏木像ヲ安置ス  
一 堂宇四間四方  
一 境内百十八坪遠才寺号ノ坪七百四十七  
番地畑五七二十七歩 地價十一円三十  
九銭 明治三十四年一月廿一日地價七  
円五十八銭改  
一 信徒十二人

### 第十五章 桑原毘沙門堂ノ事

桑原毘沙門堂ノ事付金持地藏ノ事 (貞亨記桑原ノ章)  
毘沙門堂堂ノ北山ニ在リ其方サニ向松柱  
ヲモツテ遠立ス民語ニ云フ平城天皇大  
同三年飛彈ニ匠管立スト此ノ里鶏ヲヤ  
シナフス若シ之ヲ養フ時ハ崇有リ鶏王又  
不時ニ鳴キ且ツ蓄生セズ又堂ノ辺ノ田  
ニ蛭虫無シ共ニ是レ毘沙門之ヲ以テ忌  
ムヲ以テノ政也  
毘沙門堂桑原村ノ北山ニ在リ堂ノ宏サカ  
一丈八尺柱ハ皆松ヲ以テス伝ヘ言ウ大  
同二年飛彈ノ匠管立スト村ニ鶏ヲカウ  
ズ偶々畜ハバ即チ崇ヲナストス不時辰ヲ  
告ゲ且蓄息セズト堂辺ノ田泥ニ蛭ヲ生セ  
ズト傳セラ毘沙門ノ忌ミ惜ム所ト云フ  
毘沙門堂祭日正月初辰  
春日作協立不動大同三年建立トナリ但依  
降地  
一 毘沙門堂再出  
一 延喜大同三年建榊屋ノ柱ニ本飛彈工匠作  
細見家繪ニ描庭六部建

大同二年稻庭六郎桑原毘沙門堂建ツ  
宝曆十三年桑原毘沙門 = 石燈口ウ一対奇

(夢紀郡郷土明細録)

毘沙門堂ハ五十二代平城天皇大同二年丁  
亥稻庭六郎(細見系)下ル君之ヲ建ツ堂柱皆  
秘飛彈工匠所造百二十一代靈元天皇御  
宇貞亨二年ウ六柱ニ本残再建ノ棟札  
アリ堂ハ相当大キイ春テ和柯ニモ柱ニ  
本ハ相当古イ時代ノモノト思ワレル  
金持地藏ハ毘沙門堂ノ東ニ金持地藏ト云  
フノカ残ツテイル桑原島田ノ坪五百八  
番石塔一箇五輪ニシテ高サ四尺ニ四体  
ノ地藏アリ内ニ十三体ハ塔ノ西側ニ并  
例ニ塔ハ塔ノ東ニ十箇ヲ隔テ古杉樹ノ  
元ニ鎮座ス之ヲ金持地藏トイフオニ桑  
原里荒ハイニ軒ニナルトコノ地藏ノ下ヲ  
廻レバ相当黄金ガアルト云フ之ニハ  
左ノ歌ガアル  
朝ヨサシ夕日輝ク花ノ木ノ本  
黄金午兩有明ノ日  
ト云フ有難イ歌ガアルコノ歌ハ隣村北  
河内村ニモ大同小異ノ歌ガアル何レニシ  
ニモ尙持ルハ訪テアル

第十六章 桑原村ノ事

桑原 (貞亨記草山ノ事)

藤陽ヨリ四里十八丁許リ子五ノカ名所ニ  
シテ百人ノ詠ニ入ル

桑原村 草山組ノ申四里半ニ丁 (病承記)  
一 高貳百十七石四斗五分 (四ツ九分)  
内百四拾石六斗七分 田方  
一 土砂石ハ斗四升八合 畑方  
一 家別六拾五軒 牛二十八匹  
一 人別貳百九拾五人 男百四十五人  
一 女百四十四人  
一 庄屋幣五郎 藤兵衛 八十兵衛  
一 種付五月中前後  
一 諸役出勤ニ代リ草山四ヶ村桑原本郷遠  
方川坂十六ノ炭竈ヨリ村ニ竈敷ニ応ジ  
一日一俵ツツノ割合ニ黒上敷ニテ出采  
上ル  
一 余業炭焼四拾人斗茶ウラヒ等少々庶ワ  
一 遠ヶ鼻井堰一箇所水碓高十一石三斗余  
一 コヤケイケ井堰一箇所水碓高七石七斗  
余  
一 奥山谷川筋同十九ヶ所同七十五石四斗  
九升四合 以上自普請所  
一 村北カ尾境天田郡荒原村同西方尾境同

桑原の里 史談

草山荘内ニアリテ和泉式部ノ塔今ニ存ス  
史ニヨレバ雄略天皇ノ御宇詔ニテコノ  
地ニ桑ヲウエシメラレシヨリ之ノ称アリ  
ト古クヨリアリシ地ナルコトハ歌仙源重  
之家集大管祭主基カ丹波口桑原ノ里ヲ詠  
メテ歌ト云ウ中ニ桑原云々

桑原ノ名ノ起リ (夢紀郷土史談)

一 細見村並永永上都能世谷村  
一 代神梅田春日大明神ハ饗宮供祭祀九月  
二 十一日 桑原本郷立会  
一 稲利社祭祀九月十一日  
一 禪宗本郷松隣寺且即  
一 御倉敷地御除  
一 余業炭焼茶製所  
一 寛延年中御曆節差出張ニ之有ノ儀茶並  
炭代ニテ仕来リ候故當年六月晦日限上  
納皆清仕候ト有之  
一 鹿倉山桑原ノ西ニアリ山北ハ荒原山西  
ハ細見峯境以テ境ノ頂ヨリ福智山城西  
北ニ見ユ  
一 免 四十八 四ツ三分五分  
一 高九石六斗内一斗ニ升先年ヨリ分  
高不足  
一 三石山役 一高八斗五分 新南  
一 内ニ斗八升五合三ツ六分残五斗六  
升五合  
一 高ニ斗三ツ六分 安永三年改当新南  
一 高ニ斗三合三ツ五分 西年見取  
一 納百十ニ石一斗九升七分  
一 銀十匁三分七升 藏銀  
一 薪十シ  
一 庄屋給米六斗五升ニ合三勺  
一 直米 三八升

行基菩薩ガ天平ノ昔川田ニ楊津院ヲ建テ  
更ニ北進シテ会地ニ四十九院ヲタテテ  
共ノ大部分ハ寺ノ名モ依ワラズシテ会地  
ニ四十九院ノ名ガ残ツテイル唯一  
フ滝泉寺ト云フ寺跡ダケハ奥会地村ニ残  
ツテイル此ノ寺ノ古字経ガ安永年中ニ  
三藏寺ヘ寄進セラレ而モ三藏寺ガ滅亡ノ  
際ニコノ古字経ハ春日江ノ内滿院ニ移リ  
今ニ保存サレテイルコノ中ニ保守五年  
二月二十九日願中原氏打生世トアリ願主  
桑原氏ト奥書サレテイルモノガアル  
當時会地ノ地ニ中原ヤ桑原ヲ比トスル家  
筋ノモノガイタトスレバコノ郷ニハ桑田  
郡守津御カヲ移ツテ来ツタ氏族ガ多カツ  
タコトガ明デアル耳比磨利軒桑原義家文  
書ニ丹波口有頭郷ノ姓人中原親貞トアル  
カラ中原氏ガ会地ノ地ニ移ツタコトガ明

である。又桑原氏の桑原氏ハ桑原氏ト同族ナル  
 又草山ノ庄内桑原村ガアルノハ桑原氏ノ  
 族人が早クアラノコニ養蚕械帛ノ業ヲ創  
 メタルモ、アルカラニ從ツテ会地ノ地ニ  
 テ桑原氏ノ族人が多ク住ンデイタモ、テ  
 アル。桑原氏ノ族人が桑原氏カラ出タモ、テ  
 清王仲夜天皇ノ八年ニ我口ニ来ル。其ノ  
 年百三十五歳ノ百姓ヲ卒イテ帰化ス。仁  
 徳天皇ノ時、諸郡ニ其ノ族人が分ケテ、  
 此ノ族人が養蚕械帛ノ事ニ巧ミナルヨリ、帛  
 ノ製シテコレヲ貢セシム。帝其ノ貢スル所  
 ノ帛ヲ御ミ給ヒ、桑原ニシテ、隨ル所ニ適ス  
 ルヲ賞シ給ヒ之ニ依リテ、姓ヲ波多野公ト  
 賜フ。雄略天皇ノ時、其ノ貢スル所ノ帛  
 々績ニテ、臣ノ御ミ給フニ至リタル。之ヨリ  
 姓ヲ宇都麻佐ノ君ト賜フニ至リタル。之ヨリ  
 桑原ト云フ。又、サトト云フ。ノガ、残  
 ヲテイル。又、同地カラ珍ラシイ、漢式鏡ガ  
 古墳カラ出土シテイル。共ニ会地ノ地ニ  
 桑原氏ガイヤコトガ推セラル。

第十七章 桑原ノ里歌ノ事

(霜永記)

桑原里草山庄内ニアリ  
 歌仙源重之、歌集ニ大嘗会主基方丹波口  
 桑原ノ里ヲ桑原ノ里ニヒク引マユヒロイ  
 君ガ八千代ノ衣糸ニセシ

歌枕名寄

七夕ニ年ノヲ長ク夕ノムラシ  
 ケフ桑原ニヒク眉ノ糸

右進亨ニ年大嘗会主基方屏風歌十三首内

(丹波史年表)

皇紀一八六八年延慶二年二月二四日  
 桑田郡大嘗祭主基方御屏風歌ニ神山、並  
 賀川、船井川、煙川、紅村、花並山、大  
 草川、長峯山、桑原村ヲ詠メリ  
 皇紀二四〇五年ニ、七年前延亨二年  
 丹紀郡桑原里主基方屏風歌有リ

(草山年表)

延慶二年大嘗会基方ノ桑原ノ歌アリ

桑原ノ歌

(多紀郷土史誌)

草山村ノ中桑原村ノ歌ハ延慶二年大嘗会  
 主基方屏風歌十三首歌ノ内ニアリ  
 くわばらの里にひくまゆひろひおきて  
 君ガ八千代の衣糸にせん

七夕のヒシのを長くたのむらし  
 けふくわばらのひくまゆひろ

第十六章 桑原ノサビノ事

古今著南集

(日本史料彙書)

後堀川院御位ノ時、折下人末重丹波口桑  
 原ノ御厨ニ、供御ノ備進ノタメマカリケ  
 ル時、件ノミクリヤニ山アリ、其ノ山ニ  
 竹サビ多クオイタリヨシラ肉キテ、取ニ  
 マカリタリ、或山伏ノ有ケル一人同道シ  
 テ行キケルニ、件ノ山ニハヤヲト云フ蛇  
 アリ、長サニ丈テマリ、カマクヒヲテ  
 テ此ノニ人トモガラニカカリテ、大口  
 ヲアケテノマントシケリ、サワギマドイ  
 テニゲケレドモ罪キエト限リナクテ、イ  
 カニモノガルベキカタナシ、ソコニ桑ノ  
 木ノアリケルモトニ枝ノアリケルヲトリ  
 ムカヒタリ、山伏ハウチカヲヌキテムカ  
 フコトモクケナハ、(不明)  
 ラレヌベシ、又イツトカクテタメラヒタ  
 テラント思ヒテ、枝ヲ横タヘテソバヨ  
 リスルストヨリテ、首ノ根ヲ強クウケ  
 タレバ、ウチレテヒルミケル所ヲ山伏ウ  
 チカヲ持テ切りフセツ、其ノ後希有ノイ  
 一、牛庄キテ商人ガヘリタリ、

宗部御草山在桑原  
〔註〕後堀川天皇即位西丁一ニニ二年在位  
十一御令ヨリ七三〇年前  
〔註〕古今著肉集稱成李若西丁一ニ五四年

丹波史年表

皇紀一八八四年後堀川元仁元一草山左  
山葵多桑原御耐供進  
皇紀二〇七二年五四年前前後小松志永十  
九年一草山左桑原村内裏御耐ニテキ産  
桑子献ズ  
草山年表

元仁一草山村ヨリ山葵ヲ御耐所ニ供進  
ス

桑原ノ山葵 (夢紀郷土史誌)  
草山左桑原村ハ特ニ内裏御耐テアツテ年  
及土産ノ山葵ヲ献ズタコトハ東寺志永十  
九年ノ文書ニ見エテイル

第十八章 和泉式部塔ノ事

和泉式部塔 (真亨記)

和泉式部ノ石塔アリ、高廿四尺許リ、式  
部此ノ里ニイルコト三年許リ也、按ズル  
ニ和泉式部藤原保昌ニ從ツテ丹ノ後州ニ  
住ル事古記ニ見エタリ、

右同 (封疆志)

桑原毘沙内堂ノ側ニ在リ、高廿四尺許リ  
伝ハ云ウ式部之ノ里ニイルコト三年、

右同 (新永記)

毘沙内堂ノ前諸塔ノ中ニ接ハルアリ、按  
ズルニ毘沙内堂建立ノ後新進菟玖波集ノ  
編集駿河守信成建ニハ非サルカ、私云フ  
和泉式部桑原ノ里ニ引眉拾上オモテノ詠  
歌アルヲ以テ後人傳ニエシナラン式部塔  
諸回ニアリ美濃國可児郡御嶽駅ト細久寺  
駅トノ間ノ井尻村ハ流ノ塔ニ石塔アリ五  
重ニヨリヨブ近世ノ石碑ニシテ曾テ古物ニ  
非ズ宮廬誌記ニ信濃國文八近所上桑原ニ  
アリト云ヌ和泉國泉南郡上杉村ニアリ按  
ズルニ式部通行アリタル道ニ後人立ナラ  
ニ実ノ塞ハ福津園川也郡古江村無ニ庵ニ  
アリ福陽談ニモ載タリ又京師誓願寺ニ  
アルノ東北諸丈句ニヨツテ五ツト見ユ又  
東北院ニモアリヨウ州府誌ニモ見エタリ

中後四角ノ所竹宇四才ニアリ之ノ所ニ四  
角ノ台石有所今無ト云フ塔ノ兩脇一尺許  
リ石佛ニ十五碑今二十一  
〔註〕新進菟玖波集ハ泉推ノ進ノ後土御内帝  
ノ明德年中西丁一四九五年作  
右同 (夢紀郷土史誌)  
桑原村和泉式部ノ塔ト伝ハル塔ガアル  
之ハ京都カラ住野ヲ経テ丹後ニ通ル道  
デアアル所カラ和泉式部ノ事等伝エタリ  
デアアルガコノ村ハ御耐ノ地デアツタ  
ラ都下ノ關係ガ深カツタモ、デアラウ  
右同 (夢紀郷土史誌)  
毘沙内堂ノ傍ニ和泉式部ノ塚ト唱ハル塔  
ガアル、皇登印塔デアアル、和泉式部ノ  
説ニハ大山村ニ王アツタカラ竟ク考入ルバ  
キデアアル、和泉式部塔云々〔封疆志〕或都

ハ丹後守藤原保昌ニ再修(五回目)ニテ夫ト  
共ニ丹後ニ下リ三時ノ山陰道ノ稻川(玉岬  
川)上流ト桑原(川)洪水ニテ落橋ノ為此ノ里  
ニ注回シテ住居スルト云フ、桑原ノ里ニ  
引ク云々ノ歌略、和泉式部ハ保昌ト下リ  
シハ寛弘年向六十六代一條天皇ノ御宇ナ  
ラン

第三十章 年号逆算表板草

代	天皇名	年号	西丁	廿九年ヨリ逆算	在位及同年 号年向
一五	応神		二七〇	一六八五年前	四一
二一	雄略		四九七	一四九八	二三
三六	孝德	大化	六四五	一三一〇	五
五一	平城	大同	八〇六	一一四九	四
五二	嵯峨	弘仁	八一〇	一一四九	一
五六	清和	貞観	八五九	一〇九六	一八
六〇	醍醐	延暦	九〇一	一〇五四	二二
六六	一	正广	九六〇	九六五	五
七五	家徳	寛弘	一〇〇四	九六一	八
七九	一	仁安	一一二四	八三一	二
八六	後堀河	元仁	一一三四	七三一	一
八九	後深草	建長	一二四九	七〇六	七
九五	花園	建永	一三〇八	六四七	三
百	後小	延永	一三九四	五六一	三四
一〇三	後土御門	明応	一四九二	四六三	九

一四	後柏原	永正	一五〇四	四五	一七
一五	後奈良	天文	一五三二	四二	二三
一六	正親町	天正	一五七三	三八	一九
一八	後水尾	寛永	一六二四	三三	二〇
二〇	後光	承徳	一六五二	二七	三
二二	一	寛亨	一六八四	二七	四
二四	中御門	一	一七一	二四	五
二五	一	一	一七一	二三	〇
二七	一	一	一七四	二一	四
二九	一	一	一七八	一六	二
三〇	一	一	一八〇	一五	一
三一	一	一	一八三	一二	一
三二	一	一	一八四	一一	一

第二十二章 資料書ノ事

丹波史年表  
篠山図書館蔵アリ  
抜萃

貞亨記

草山年表

貞亨二年皇紀二三四三年今ヨリ二六九年  
前篠山藩ノ儒者太田每資及養良正實ガ君  
名私平氏ニヨリ造シタモノデアアル。篠山  
領地志トモ云フ。

草山村役場蔵書ヨリ抄ス

篠山封疆志

正徳六年西ノ一七一七年、三四年前篠  
山藩儒者松崎南谷ガ貞亨記ヲ召命ニヨリ  
再修シタモノデアアル。篠山藩管轄内ノ地志ト云  
フ意味デアアル。

赤永記

西泉指掌、夢記郡明細記ト云ワレル。

夢記郷土史誌

昭和九年発行デア篠山藩士出身福原清次郎  
(号念下山人)ノ著ニシテ口語体ノ文デアアル。

夢記郷土明細録

現夢記文化顕彰会長奥田常通(号栄々斎)氏  
ノ覺書ヨリ抜萃シタ。

史談

夢記郡志大正六年三月脱稿ヨリ抜萃